



「みくにっこアンビシャス広場」本部長表彰を受賞

アンビシャス運動を校区の地域活動として展開している「みくにっこアンビシャス広場委員会」(伊藤浩一委員長)が青少年アンビシャス運動推進本部(本部長:麻生渡福岡県知事)から3月4日、団体表彰を受けました。

3月23日、この受賞を委員会の役員らが平安市長を訪問し、報告しました。

広場では、地域の人たちの協力を得ながら、子どもたちの居場所づくりを行っていること、協力している人たちも楽しく活動し、生きがいづくりにもなっていることなどが報告されました。また、子どもたちも自分たちでルールをつくるなど、成長している姿が見られるとのこと。役員らは、大人も楽しめるような地域行事を今後もやっていきたいとの抱負を語っていました。



大刀洗空襲を伝える

大刀洗空襲や戦争の実態を伝え、平和を考えようと、「大刀洗飛行場」関連写真・戦時品・図書等展示会」が3月26日、27日にくろつち会館(立石校区公民館)で開催されました。

昭和20年3月27日の米軍による旧大刀洗飛行場(大刀洗町など)の爆撃で、三軒屋地区(井上)でも立石国民学校(現立石小学校)の児童3人を含めて十数人が死傷したことから、その戦争の悲劇を伝えようと、大刀洗空襲と三軒屋爆撃を語る会「椋島新代表」などが企画したものです。

会場を訪れた人の中には、当時の貴重な資料や終戦直後の航空写真などを見て戦争の実情にふれ、資料に見入る姿が多く見受けられました。

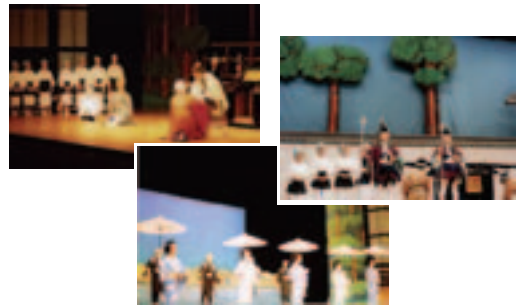


松崎の魅力語る

4月1日、松崎の三原家洋館において、市内在住の童話作家田熊正子さん(横隈)の書き下ろし「松崎街道百年ばなし」の語り部会が開催されました。語り部として福永厚子さん(東町)が、松崎宿「狐がくれた赤ん坊」「油屋の娘」の三作品を紹介しました。

これらの作品の語り部会は、歴史的な街並みが残る松崎の魅力を地元の人たちにもっと知ってもらうために行われました。

参加者からは、「住んでいる人も知らない地名が出てきた」「ユーモアのある話で思わず笑ってしまった」との感想も。また、次回は松崎以外の人にも松崎街道百年ばなしを聞いてもらえようように、今後再開してほしいとの声も出ていました。



函館から子ども歌舞伎がやってきた

函館戦争の時に赤十字活動を実践した高松凌雲先生(古飯出身)の縁で、函館との交流が続いています。

3月31日、函館から子ども歌舞伎がやってきました。

歌舞伎役者で、函館や小松などでも指導をしている市川団四郎師が、笑いあり涙ありのとてもすばらしい舞台を披露しました。

総勢25人の出演者の内なんと15人は小郡の子どもたち。劇団つばさや、レインボーキッズといった劇団に所属しているものの歌舞伎は全く初めての取り組みでしたが、見事に脇役を務め上げ、歌舞伎の舞台を成功させました。

また、ワークショップでは歌舞伎の裏話が、体験コーナーでは素人の男性が歌舞伎の女方を演じてみるなど、会場は楽しい雰囲気になっていました。

小郡の野鳥を紹介

「鳥類についての正しい知識と愛護思想の普及」を目的とした「愛鳥週間(バードウィーク)」の期間中、「小郡で見た野鳥」の写真と野鳥を描いた鉛筆画の展示会が開催されます。

この機会に、花立山や市内の溜池などに飛来する鳥を観察してみたいかでしょうか。

▼日時 5月10日(木)～16日(水) ただし土・日を除く/午前9時～午後5時

▼会場 小郡郵便局コミュニティルーム

▼内容 絶滅危惧種野鳥写真(国武嘉隆さん)10点、野鳥鉛筆画(森田公造さん)12点などの展示

▼入場料 無料